





# 食を通じて地域交流を!

## 旬の江別産野菜を使った料理教室開催

去る九月六日、大麻公民館(えぼあホール)において、「高齢者が住みやすいまちづくり推進会議」主催、大森住民の方が三十名集まり、四〜五名のチームになり、互いに初対面ながら協力して料理づくりに挑戦。この日は「地元の野菜を使った料理教室」が、この企画は、「高齢化が進む大麻団地」で地域住民が「食」を通じて交流し合う場「コミュニティ・レス」の具体化を探るの目的で実施された。料理講師は江別に住む親子の方で息もぴったり大好評でした。参加者からは「チー」のベテラン主婦の方から「アドバイスをもらうなど、素敵な出会いに感謝!」「安心・安全な食べ物への意識が変わった。地元野菜に注目したい」「世代間のチーム分けがよかった」などの感想が寄せられました。



### 大学院(修士課程)からのお知らせ

税理士・臨床心理士・専修免許・地域社会のリーダー育成

- 社会人をサポート働きながら学べます(夜間授業・札幌大通サテライト教室・長期履修制度)。
- 短大卒でも資格認定で受験可能です。
- 入試は10月と2月、本学卒業生向け入試制度があります。
- 詳しくは、本学大学院・研究課までお問い合わせください。(TEL011-386-8111)

法学研究科/臨床心理学研究科/地域社会マネジメント研究科



「まちを賑わす」ことが重要です。この「まちを賑わす」仕掛けとして、札幌都心のまちづくり組織「まちばら」が企画したのが「さっぽろタパス」です。「さっぽろタパス」とは、札幌の街の中をまわってお店を食べ歩くイベントです。今回参加した店七十

### 社会連携センター「さっぽろタパス・セントロ」開設

本学の地域社会マネジメントセンター(本学社会連携センター)の活動の中心となる「さっぽろタパス」を積極的に支援することし、都市を再生していくためには、先ずは何らかの手法でとていくことが重要である。この「まちを賑わす」仕掛けとして、札幌都心のまちづくり組織「まちばら」が企画したのが「さっぽろタパス」です。

### 文京台のみなさんと大学が懇談会

第十九回文京台地域諸団体との懇談会が七月十三日、本学を会場に開催されました。地元文京台自治会代表者、文京台アパート協会、江別市、江別警察署から三十二名が出席し、布施晶子学長他大学関係者十四名、学生代表五名と懇談しました。この懇談会は、本学が地域住民代表との意見交換の場として毎年開催しているものです。懇談会では、文京台地域のゴミ等諸問題は、行政・

### 保護者懇談会 帯広・釧路で開催

保護者懇談会の地方会場は七月八日に帯広、九日に釧路にて開催しました。帯広では約七十名、釧路では約四十名の保護者の方々が出席いただき、好評を得ました。保護者の皆様とご協力いただいた関係の皆様にお礼申し上げます。保護者懇談会の内容として、

### 私学助成の署名 ご協力のお礼

毎年、私大助成の増額等を求め実施しております国会請願署名を、今年も本学在学生の学費負担者の皆様にご協力をお願いしました。ご協力をお願いしたところ、ご趣旨に賛同いただき署名三千八百六十三筆と募金三十八万九千二百円をお寄せいただきました。また、一年生の父母の方々には「二〇〇六年度私立大学新入生の家計負担についてのアンケート」にもご協

### 教職員人事

#### ◎異動

平成十八年六月十九日付  
▼事務局長兼管財課長(事務局長兼エクスステンションセンター事務室長) 小柴寛  
▼総合政策部長(総合政策部長兼広報課長) 荒憲一  
▼総合政策部長(総合政策部長) 三浦仁史  
▼管財課管財係長(財務部管財課管財係長) 鈴木仁  
▼教務部教務課人文部係長(教務部教務課人文部係長) 樋田康宏  
▼学生事務部長兼就職課長(学生事務部長兼就職課長) 嶋雅明  
▼総務部財務課長(財務部財務課長) 川村正志  
▼情報処理課長(総務部情報処理課長) 佐藤博昭  
▼情報処理課長(総務部情報処理課長) 佐藤博昭

▼入試課長(総合政策部入試課長) 飛田哲也  
▼学生課長(学生部学生課長) 山口清  
▼総合政策部長(総合政策部長) 松田昇一  
▼総務部財務課長(総務部財務課長) 三浦仁史  
▼管財課管財係長(財務部管財課管財係長) 鈴木仁  
▼教務部教務課人文部係長(教務部教務課人文部係長) 樋田康宏  
▼学生事務部長兼就職課長(学生事務部長兼就職課長) 嶋雅明  
▼総務部財務課長(財務部財務課長) 川村正志  
▼情報処理課長(総務部情報処理課長) 佐藤博昭

▼管財課 伊藤博之  
▼財務課(財務部財務課) 白鳥優子  
▼総務部財務課(総務部財務課) 稲垣愛弓  
▼総務部情報処理課(総務部情報処理課) 宮島由光  
▼総務部財務課(財務部財務課) 須賀一  
▼管財課(財務部管財課) 菅野紘一  
▼管財課(財務部管財課) 中鉢哲也  
▼管財課(財務部管財課) 松本涼子  
▼管財課(財務部管財課) 中村英三  
▼情報処理課(総務部情報処理課) 辻徹  
▼情報処理課(総務部情報処理課) 佐藤博昭  
▼情報処理課(総務部情報処理課) 佐藤博昭

▼学生部就職課(学生部就職課) 浦島俊一  
▼入試課(総合政策部入試課) 中村圭二  
▼入試課(総合政策部入試課) 後藤久美子  
▼学生課(学生部学生課) 富井清美  
▼学生課(学生部学生課) 佐藤秀之  
▼学生課(学生部学生課) 廣田寿美子  
▼学生課(学生部学生課) 小野麻美  
▼図書課(財務部図書課) 竹本隆  
▼図書課(財務部図書課) 竹本隆  
▼図書課(財務部図書課) 竹本隆

▼学生部就職課(学生部就職課) 堀切利昭  
▼学生部就職課(学生部就職課) 堀切利昭  
▼学生部就職課(学生部就職課) 堀切利昭

## 学園広報94号 「2005年度決算並びに2006年度予算」記事の訂正について

前号2頁の「資金収支計算書」に誤謬がありました。謹んでお詫び申し上げますとともに下記のとおり訂正させていただきます。

	2005年度決算	2006年度予算
学生生徒等納付金	4,745,428	4,423,000
手数料	78,943	74,000
寄付金	39,805	14,100
補助金	357,129	356,000
(内経常費補助金)	(353,257)	(352,800)
資産運用収入	161,400	164,400
資産売却差額	105,367	33,200
事業収入	1,362	400
雑収入	147,685	200,200
帯属収入合計	5,637,119	5,265,300
基本金組入額合計	△ 871,171	△ 410,900
消費収入の部合計(ア)	4,765,948	4,854,400
人件費	2,910,081	2,883,000
(内退職給付引当金繰入額)	(0)	(100)
教育研究経費	1,684,015	1,603,000
(内減価償却額)	(464,726)	(512,500)
管理経費	410,862	393,000
(内減価償却額)	(57,501)	(60,200)
借入金等利息	1,664	0
資産処分差額	117,475	2,200
徴収不能引当金繰入額	0	800
予備費	0	52,000
消費支出の部合計(イ)	5,124,097	4,934,000
消費収入超過額又は消費支出超過額(ア-イ)	△ 358,149	△ 79,600
翌年度繰越消費収入超過額	1,181,230	1,101,630

	2005年度決算	2006年度予算
学生生徒等納付金収入	4,745,428	4,423,000
手数料収入	78,943	74,000
寄付金収入	7,840	9,000
補助金収入	357,129	356,000
資産運用収入	161,400	164,400
資産売却収入	2,033,852	1,780,000
事業収入	1,362	400
雑収入	147,685	200,200
借入金等収入	40,050	10,500
前受金収入	764,938	729,400
その他の収入	2,445,657	944,974
資金収入調整勘定	△ 838,461	△ 947,938
前年度繰越支払資金	1,963,110	1,758,848
収入の部合計	11,908,933	9,502,784
人件費支出	3,001,627	3,032,000
教育研究経費支出	1,219,289	1,090,500
管理経費支出	353,361	332,800
借入金等利息支出	1,664	0
借入金等返済支出	100,550	10,100
施設関係支出	1,275,744	52,300
設備関係支出	239,742	124,200
資産運用支出	3,930,496	2,955,000
その他の支出	102,909	155,030
予備費	0	52,000
資金支出調整勘定	△ 75,297	△ 102,877
次年度繰越支払資金	1,758,848	1,801,731
支出の部合計	11,908,933	9,502,784

	本年度末(2005年度末)	前年度末(2004年度末)	増減
資産の部			
固定資産	20,296,423	19,459,318	837,105
有形固定資産	13,452,749	12,545,680	907,069
その他の固定資産	6,843,674	6,913,638	△ 69,964
流動資産	7,789,500	8,266,007	△ 476,507
資産の部合計	28,085,923	27,725,325	360,598
負債の部			
固定負債	1,358,525	1,449,922	△ 91,397
流動負債	934,421	995,449	△ 61,028
小計	2,292,946	2,445,371	△ 152,425
基本金及び消費収支差額の部			
基本金	24,611,747	23,740,575	871,172
消費収支差額	1,181,230	1,539,379	△ 358,149
小計	25,792,977	25,279,954	513,023
負債の部・基本金及び消費収支差額の部合計	28,085,923	27,725,325	360,598

	本年度末(2005年度末)	前年度末(2004年度末)	増減
資産の部			
固定資産	20,296,423	19,459,318	837,105
有形固定資産	13,452,749	12,545,680	907,069
その他の固定資産	6,843,674	6,913,638	△ 69,964
流動資産	7,789,500	8,266,007	△ 476,507
資産の部合計	28,085,923	27,725,325	360,598
負債の部			
固定負債	1,358,525	1,449,922	△ 91,397
流動負債	934,421	995,449	△ 61,028
小計	2,292,946	2,445,371	△ 152,425
基本金及び消費収支差額の部			
基本金	24,611,747	23,740,575	871,172
消費収支差額	1,181,230	1,539,379	△ 358,149
小計	25,792,977	25,279,954	513,023
負債の部・基本金及び消費収支差額の部合計	28,085,923	27,725,325	360,598

この部分が訂正箇所となっております。





### 高校生のためのマーケティング講座 商学部サマースクール “ハンバーガー”をテーマに大学体験

商学部では昨年度に続き、高校生を対象としたサマースクールを実施しました。今回は「食うか食われるか、ハンバーガー競争」をテーマとして、八月三日に高校生と大学生を合わせて十六名で行いました。遠くは札幌町からの参加者もいました。この企画は、将来就職を志す学生が履修する科目「商学特別講義」での実習であり、高等学校の教師になった際の「課題研究」(総合的学習)の指導能力を高める目的のために進めています。高校生にとって身近な事象をテーマに、興味を持って調べて、考えて、体感することを、どのような取り組みによって実践できるのかを大学生自身が学びます。

今回のサマースクールは講義と実習の二部からなり、前半の講義では、マーケティングの基礎知識やハンバーガー業界の歴史と大手ハンバーガー・チェーンの経営戦略について、大学生と教員がパワーポイントを用いた際の「課題研究」(総合的学習)の指導能力を高める目的のために進めています。後半の実習は、コンピュータセンターでインターネットを利用して、ローカルなハンバーガーショップについて高校生が自ら調べ、大手ハンバーガー・チェーンとは違う経営戦略を理解できるようにしました。企画の最後に各メーカーのハンバーガーとポテトを食べくらべする商品テストの実習を行いました。実物を見ながら事前の予想よりも正解率が高い(予想以上に高校生はゼミナールやサークル活動でも気軽に利用することができます。ここは、四国八十八箇所お遍路や夏目漱石の小説、「坊ちゃん」で有名な土地でもあり、歴史についても多く学ぶことができます。観光地を周って、歴史に関する深いお城や過去に使用されていた道具の展示など、札幌ではあまり経験できない体験ができて、とても面白いです。愛媛県だけでなく、中国地方、九州地方も近いので気軽に訪ねることもできます。札幌とは違った大自然の中で、四国ならではの地域経済を学ぶこともでき、非常に有意義な日々を送っています。

八月二十六日、札幌学院大学商学専攻研究学会の研究会が本学で開催されました。この研究会は、本学出身の商学専攻教師が研究学会を開催しました。八月二十六日、札幌学院大学商学専攻研究学会の研究会が本学で開催されました。この研究会は、本学出身の商学専攻教師が研究学会を開催しました。八月二十六日、札幌学院大学商学専攻研究学会の研究会が本学で開催されました。この研究会は、本学出身の商学専攻教師が研究学会を開催しました。

今年度の夏期集中講義は「北海道の自然と人間の共生を考える」と題して、七月三十一日から八月五日までの六日間にわたって開講されました。その趣旨は、一見きわめて豊かに見える北海道にも今自然生態系の危機が進行しており、多くの生物が絶滅に瀕しているという状況を踏まえ、北海道の自然と人間の共生の可能性について考えて見たいということ。講師陣は合計十一人で、環境問題や自然保護の第一線で活躍している著名な方々を集めた超豪華な顔ぶれであり、これが市民の関心を引きつけたと思われまふ。冒頭の石弘氏は、世界の環境問題の現状を説明しながら、今地球全体で温暖化やエネルギー資源の節約などに取り組むべき必然性を力説。小野有紀氏は、下川町で計画されているサンルダムの建設を例にダムに代



前列右2人目が小栗さん  
小栗 雄太さん  
現在、単位互換制度に基づいて国内留学制度を利用して、愛媛県松山市にある松山大学に留学しています。愛媛は自然豊かで、海や山がとて近く、

#### 異文化に触れる、視野が広がる

札幌学院大学には北海道や日本を離れ、異文化に触れるさまざまな機会が用意されています。今回は愛媛・松山大学、韓国・東国大に留学している学生に登場してもらいました。

韓国 東国大 法学部法律学科3年 小野有紀子さん  
韓国に来て7カ月が経ちますが、韓国という国と韓国人は奥が深いと実感する日々です。韓国には「ウリ(ウリ)仲間」という意味の文化があっても仲間を大切にしています。私もこのウリの文化によって色々と助けられています。先生達もとても親切で、勉強だけでなく私生活でも困っていると相談のつてくれ色々助けてくれます。韓国では上下関係が厳しく、先輩に対しては必ず挨拶をし、先輩がタバコを吸わないか聞くまでタバコを吸わなかったり、日本に頻りにハンバーガーを食べたい(一方で、目隠しをしていた)一方で、目隠しをした状態では正解率が下がることを体感しました。朝から夕方まで一日かけて進めてきたサマースクールの最後に、高校生に回答してもらったアンケートでは、「来てよかった。また来たい」「大学の勉強が面白かった」「大学生が皆親切でうれしかった」という感想を全員が書いてくれて、大先生はしみりとしながら、教員に向けての取り組みに元気をもらう締めくくりとなりました。

中列左から3番目が小野さん  
今年度の夏期集中講義は「北海道の自然と人間の共生を考える」と題して、七月三十一日から八月五日までの六日間にわたって開講されました。その趣旨は、一見きわめて豊かに見える北海道にも今自然生態系の危機が進行しており、多くの生物が絶滅に瀕しているという状況を踏まえ、北海道の自然と人間の共生の可能性について考えて見たいということ。講師陣は合計十一人で、環境問題や自然保護の第一線で活躍している著名な方々を集めた超豪華な顔ぶれであり、これが市民の関心を引きつけたと思われまふ。冒頭の石弘氏は、世界の環境問題の現状を説明しながら、今地球全体で温暖化やエネルギー資源の節約などに取り組むべき必然性を力説。小野有紀氏は、下川町で計画されているサンルダムの建設を例にダムに代

今年も参加  
ふるさと江別塾  
生涯学習の普及を目的に、江別市教育委員会と市内の四大学が共同で企画する『ふるさと江別塾』が、今年も十月七日から十月二十八日までの毎週土曜日、計四回にわたって各大学を会場に開催されました。本学は、十月二十一日の渡邊慎哉教授が「江別の

古く写真を題材とした地域デジタルアーカイブ」と題して講演を行いました。当日は、約四十名の市民の皆さんがB館101教室に集まり、三時間及ぶ長い講義にもかかわらず、最後まで熱心に耳を傾けていました。参加された皆さんからは「是非、自分の家にある写真もデジタルで保存して後世に残したい」という声も聞かれ、講演に十分満足した様子が見られました。本学は、今後も各学部の公開講座をはじめ、社会連携センターにおけるコミュニティカレッジ等、生涯学習を通じた地域社会との連携に力を入れてまいります。関係各位のご支援・ご協力を宜しくお願いたします。

今年六月から札幌年度最終となる商学部第二圏を中心に「地上デジタル放送」が始まり、多彩な講師をお招きし開講しました。東京・大阪・福岡などでスタートと販売店の立場から、初めて二年が経過してと販売店の立場から、初めおられますが、北海道に液晶開発でNHKのプロは地域も広く、導入ジェクトXにも出演され、には多くの困難があ液晶では亀山モデルでも話るとのことです。その題となっている船田文明氏は、「地上デジタル放送」プレイ技術開発本部技監)朝日の福田氏にいただき、改めて感謝の意を表したいと思ひます。また、講師の方々は手弁当で快諾をいただきましたことお礼を感謝いたします。

今年度の夏期集中講義は「北海道の自然と人間の共生を考える」と題して、七月三十一日から八月五日までの六日間にわたって開講されました。その趣旨は、一見きわめて豊かに見える北海道にも今自然生態系の危機が進行しており、多くの生物が絶滅に瀕しているという状況を踏まえ、北海道の自然と人間の共生の可能性について考えて見たいということ。講師陣は合計十一人で、環境問題や自然保護の第一線で活躍している著名な方々を集めた超豪華な顔ぶれであり、これが市民の関心を引きつけたと思われまふ。冒頭の石弘氏は、世界の環境問題の現状を説明しながら、今地球全体で温暖化やエネルギー資源の節約などに取り組むべき必然性を力説。小野有紀氏は、下川町で計画されているサンルダムの建設を例にダムに代

#### 子ども発達学科開設記念 講演と音楽の夕べ 帯広・北見で開催

「講演と音楽の夕べ」が六月三十日に帯広市民文化ホールで、十月六日に北見芸術文化ホールで開催されました。帯広市では今回で九回目、北見市では今回で六回目の開催になります。今回の講演のテーマは本学の子どもの発達心理学の視点から、楽しい実験を交えつつ、各々の自由な発想を大切にすることが子どもを認めることにつながるお話にうなずく姿が多くみられました。音楽は、ピアノ・絵里さん、チェロ・土田英順さんによる「土田英順のチェロ・ポピュラー名曲集」の素敵な演奏が観客を魅了していました。

#### 今年も参加 ふるさと江別塾

生涯学習の普及を目的に、江別市教育委員会と市内の四大学が共同で企画する『ふるさと江別塾』が、今年も十月七日から十月二十八日までの毎週土曜日、計四回にわたって各大学を会場に開催されました。本学は、十月二十一日の渡邊慎哉教授が「江別の

#### 夏期集中講義(公開講座)2006年7月31日(月)~8月5日(土)

今年六月から札幌年度最終となる商学部第二圏を中心に「地上デジタル放送」が始まり、多彩な講師をお招きし開講しました。東京・大阪・福岡などでスタートと販売店の立場から、初めて二年が経過してと販売店の立場から、初めおられますが、北海道に液晶開発でNHKのプロは地域も広く、導入ジェクトXにも出演され、には多くの困難があ液晶では亀山モデルでも話るとのことです。その題となっている船田文明氏は、「地上デジタル放送」プレイ技術開発本部技監)朝日の福田氏にいただき、改めて感謝の意を表したいと思ひます。また、講師の方々は手弁当で快諾をいただきましたことお礼を感謝いたします。





海外で働きたいと思っ  
たことはありませんか。  
私は昨年からウィーン  
日本人学校に勤務して  
います。北海道で小学  
校の教員をしながら、  
在外教育施設(日本人  
学校や補習校)派遣の  
選考試験を受け、昨年  
派遣となりました。

### 卒業生通信

ウィーン日本人学校勤務  
小学校教諭 福士 晶知さん

## 海外で生活する子どもたちのために

海外で働きたいという思  
いは、法学部法律学科二年  
生の時に、本学の夏の集中  
講座でポストンのベントリー  
カレッジに行き、英語や異  
文化を学んだという経験か  
らです。その後、教員になっ  
てから小学校における英語  
活動の取り組みやインター  
ネットを使った交流学習な  
どに取り組んできました。  
また、在外教育施設を訪問  
し、子どもたちと話をし  
ていくうちに自分も海外で生  
活している子どもたちのた  
めに働きたいという思いが  
一層強くなりました。  
現在勤務しているウィー  
ン日本人学校には、小学一  
年生から中学三年生までが  
在籍しています。そして、  
日本のカリキュラムに基づ  
いて日本と同じ内容での教  
育活動が行われています。  
特色としては現地理解教育  
が中心ですが、こちらで  
は中学校の教科も担当して  
おります。現在、小学四年  
生の担任ですが、小学六年  
生や中学三年生を指導  
しています。毎日、準備が  
大変ですが中学生にも指導  
できるなど新しい発見や経  
験ができ、楽しいです。  
私は教員になりたいとい



### イベントも盛りだくさん 「イベントも盛りだくさん」スタ

「えべつものづくりフェ  
スタ2006」が九月二十  
三日、ほくでん総合研究所  
で開催されました。江別の  
企業・市民団体・大学が様々  
な体験コーナーを開いてい  
る中、本学が企業に協力し  
て出展している二つのコー  
ナーをみました。  
会場入口のすぐ横  
に「小麦粉粘土で遊  
ぼう」の看板があ  
りました。ここは、  
えべつ麦の会提供で、  
SGU遊ベンチャー  
の学生が手伝いに参  
加しているコーナー  
です。学生たちは、  
前日にフェスタ参加

う思いから、大学で教職課  
が開設され、小学校の教員  
課程を履修し、さらに通信教  
育で小学校の免許を取得し  
ました。その過程で海外で働  
きたいという思いも強くな  
りました。今年から本学で  
は人文学部でも発達学科  
ます。  
が開設され、小学校の教員  
免許が取得できるようにな  
りました。学生時代に自分  
の力量を高め、自分が教員  
になってできることをたくさ  
ん身につけて欲しいと思  
います。  
企業の江別製粉に向かい  
て百二十キロの粘土を作り、  
五色の粘土入り袋を五百個  
作りました。小麦が原料な  
ので、口に入れても安全。  
たくさん幼児が楽しそう  
に粘土遊びをしていました。  
一階奥に「親子で作ろう!  
電子工作」の看板。江別I  
T技術者協会と電子ビジネ  
ス研究センターの協力が出  
展しているコーナーです。  
子どもたちが夢中に作業を  
する後ろから、さらに夢中  
になってかぶるように手  
伝っておられたお父さんた  
ちの姿がほほえましく感じ  
ました。午前中は電子オル  
ゴールに三十組、午後から  
は三石トランジスタに十組  
の親子が訪れ、それぞれ作  
品を持ち帰りました。

## 命を守る環境を 心肺蘇生法と AED講習会開催

七月三十一日、江別市消  
防署の指導のもと、学生対  
象にAED(自動体外式除  
細動器)を使用した心肺蘇  
生法の講習会が開催されま  
した。  
心臓発作を起こした後で  
きるだけ早くAEDを使う  
ことで多くの命を救うことが  
可能です。本学は七月十九  
日にAED二台を導入し、  
学生および大学関係者の更  
なる安全を目指しています。



危険に陥った傷病者を目  
の前にした際に、落ち着い  
て「安全に」「迅速に」「確  
実に」適切な処置ができる  
よう体育会系クラブを中心  
に二十名が実技指導を受  
け、受講者全員が「市民救  
護士講習修了証」を受け取  
りました。  
なお、職員は全員が講習  
を受けることになっており、  
果敢な批評性を高く  
評価しました。

法学部第七期卒業生 松木 秀さん  
現代歌人協会賞に  
選考される



## サッカー部 創部三十七年目で 初の全道優勝!

サッカー部主将、長谷川  
敏彰さん(経済学部四年)  
に会いました。サッカー部  
での背番号は十四番。ポジ  
ションはトップ下、役割は、  
いわゆる指塔塔です。本学  
サッカー部は、創部三十七  
年目にして、初の全道優勝  
を果たし、全国大会に出場  
しました。  
全国大会での対戦相手は、  
「メンバーは強い高  
名門、駒澤大学。後半二十  
五分までは、一対二で負け  
てはいましたが、互角の展  
開をしていました。『最後  
の二十分で駒澤大学に五  
点を入れられ、最後には一  
対七で負けてしまったん  
です。相手のゴールキーパー  
と札幌が完成し、冬場の練  
習で質を上げることができ  
ました。これが全道優勝に  
つながったと思います。さ  
らなるサッカー部の活躍が  
期待されます。』  
(学生課)



インタビューに答  
える長谷川さん  
優勝杯を手に喜ぶ  
サッカー部(中央後  
姿が長谷川さん)

## 2006年 秋の課外活動 PICK UP



自分で作りのあがる喜び  
総合芸術研究会 写真部  
私たち写真部はサッポロ  
フアクトリーなどの年数回  
の写真展を主な活動として  
います。  
写真展のほかは基本的に  
自由活動です。現在、約二  
十五人の部員は、写真展が  
近くなるとともに自然と  
部室に人が集まってきて、  
いろいろと楽しんでいま  
す。近年デジタルカメラが普  
及してきており、部内でも  
デジタル一眼カメラやコンパ  
クトデジタルカメラを使う部  
員も増えてきていますが、そ  
んな時代だからこそ自分で  
現像する白黒やカラーのフ  
ィルム写真の良さに気付か  
れます。

暗室作業は時  
間も手間もかか  
るけれど、自分  
で作り上げてい  
く喜びを得るこ  
とが出来ると、  
フィルム業界が  
厳しい状況になっ  
ていく今後も写  
真部は変わらず  
う公式は変わら  
ないと思います。  
八月二十三日、二十七日  
まで、Vリーグチームのト  
ヨタ車体女子バレー部の皆  
さんに、北海道合宿の練習  
場として札幌学院大学メイ  
ンアリーナ等を使っていた  
ことができました。私たちバレー  
ボール部もお手伝いという  
形で、この五日間を共に過  
ごしました。  
午前中はボールを使った  
練習、午後は主にトレニ  
ングというメニューで行わ  
れており、今まで  
私たちがしてきた  
練習とはやはり量  
も質も、そして心  
持ちも格段と上  
りました。こんな間近  
で日本最盛りの  
リーグで戦う選手の方々  
を見るのができ  
心身ともに大変勉  
強になりました。  
空き時間には、



可能性を信じて  
バレーボール部  
商業部3年 飛渡 望さん  
葛和監督(元全日本監督  
をはじめ、コーチ陣から、  
練習・トレーニング方法を  
教えていただきました。最  
終日には江別市内の小中学  
生を対象としたバレーボー  
ル教室も行いました。  
もうすぐ秋季の大学リ  
グ戦が始まります。今回こ  
うして勉強させていただ  
いたことを糧にし、部員一丸  
となって、もう一度二部昇  
格へ挑戦したいと思います。

社会情報学部の高橋徹ゼミナ  
ルに所属する私たちの研究グル  
ープでは、北海道日本ハムファイ  
ターズは北海道にどのくらい定  
着しているだろうかというテー  
マに取り組んでいます。  
その研究の一環として、私  
たちは球団側にも協力をいた  
だいて八月十三・十五日に札幌ド  
ムで行われたファイターズ公式  
戦の観客を対象にアンケート調  
査を行いました。  
アンケート調査を行う前日  
では、予定部数として用意した  
千枚をすべてさばるかどうか  
とても不安でしたが、いざ行っ  
てみたら観客の皆さんがとて  
も暖かく熱心に答えてくださ  
いました。なかにはファイターズ  
の事を熱く語ってくださった観  
客の方もいました。  
アンケートの質問は、ファイ  
ターズは北海道に根づいたと思  
うかという点や、新庄選手引退  
の影響、ファンクラブやチケッ  
トの値段についての質問など、  
多岐に渡っています。特に、注  
目選手は誰かという質問では、

## 札幌ドームでファンに アンケート調査

社会情報学部3年 高橋 直也さん  
倒的に新庄選手が多いと思っ  
ていましたが、森本選手が一番  
多い結果になりました。さら  
には、ファイターズが北海道に  
やってきたことで、それ以前と  
は応援するプロ野球のチームが  
変わったという方が七割近くも  
いたことがわかり、ファイター  
ズ来道の影響がとても大き  
かったことがわかりました。  
私たちにこのアンケート  
調査の活動は、ゼミ研究を行  
う上で大変有意義であり、また  
とても良い経験をさせていた  
だいたと思います。

